


 東北大学

学術情報リテラシー教育の現状



東北大学附属図書館総務課情報企画係長
 佐藤初美

平成17年度大学図書館職員講習会 1

情報リテラシーとは何か

高度情報化社会の実現

リテラシー

基本的な読み書き能力

情報リテラシー（情報活用能力）

コンピュータリテラシー

メディアリテラシー

図書館

利用者教育

学術情報リテラシー

学習・研究のために身につけておくべき基本的な情報活用技術

中学
「情報とコンピュータ」の導入
「情報」科目の導入

問題解決能力
生きる力

レポート・論文作成
就職後の業務
生涯学習

平成17年度大学図書館職員講習会 2

大学と図書館のリテラシー教育

大学教育自体の変化

知識提供型

↓

問題解決
自己表現重視
情報発信

型

利用ガイダンス

OPAC(自館蔵書検索)

各種DBの使い方

個別対応講習会（研究室等）

授業の一コマ利用

授業として開講

平成17年度大学図書館職員講習会 3

これまでの流れ

1970年代～(アメリカ)

「情報リテラシー」の登場

1998～

利用者教育

1999～

東大等でWeb上の教材提供開始

2003～

NIIでリテラシー研修始まる

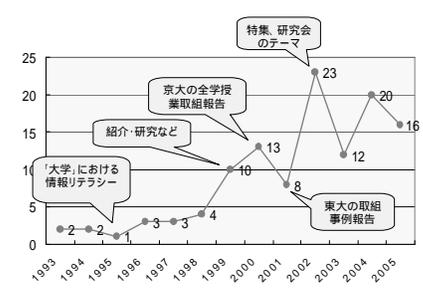
2004～

東北大等で主題に踏み込んだ内容の教材提供

三重大等で学外も対象とした活動始まる

平成17年度大学図書館職員講習会 4

リテラシーに関する記事数



(出典: MAGAZINEPLUS)

平成17年度大学図書館職員講習会 5

東北大学附属図書館の活動

共通教材の作成に着手

各館ごとに実施 全体的な構想なし 共通の教材なし

各担当（係または個人）

全学教育科目の開始

「東北大学生のための情報探索の基礎知識」完成・配布

システム改訂のためのWGを利用

「人文社会科学」の作成

「基本編」の改訂 「自然科学編」完成

全館体制の「図書館情報教育支援WG」を設置

平成17年度大学図書館職員講習会 6

「基礎知識」シリーズの作成について

Q.なぜ「冊子体」か？

Q.なぜ「詳細」か？

Q.電子媒体での提供はどうするのか？

Q.維持体制はどうするのか？

Q.予算の確保はどうするのか？

Q.新しい企画はあるのか？

平成17年度大学図書館職員講習会 7

サイトへのアクセス数推移

<http://www.library.tohoku.ac.jp/mylibrary/tutorial/>

2003 2004 2005

平成17年度大学図書館職員講習会 8

オープンソースの配布状況

編	2004年度	2005年度
基本編	36	11
自然科学編	21	11

平成17年度大学図書館職員講習会 9

全学授業の実施について

2004年度	2005年度
大学図書館の役割と課題	大学図書館の役割と課題
情報探索の基礎	レポート作成法(1)
オンライン目録(1)	情報探索の基礎
オンライン目録(2) 実習	オンライン目録(1) 実習
レポート作成法(1)	オンライン目録(2) 実習
レポート作成法(2) 実習	各種参考資料の使い方(1) 実習
2次情報データベース(1)	2次情報データベース(1) 実習
2次情報データベース(2) 実習	レポート作成法(2) 実習
電子ジャーナルとオンライン新聞 実習	2次情報データベース(2) 実習
各種参考資料の使い方(1) 実習	電子ジャーナルとオンライン新聞 実習
各種参考資料の使い方(2) 実習	各種参考資料の使い方(2) 実習
レポート作成法(3) 実習	研究活動と学術情報の流通
研究活動と学術情報の流通	レポート作成法(3)
レポート提出	レポート提出

平成17年度大学図書館職員講習会 10

全学授業の実施について

レポート作成のためのメモ

テーマ: _____

関連する文献

1. 目録	書名	著者名	出版年	出版者	所収

2. 論文

論文名	著者名	掲載誌名	出版年	頁号

レポートのアウトライン

タイトル: _____

序論 _____

段々問題 _____

なぜその問題を扱うのか: _____

どういった観点で扱うのか: _____

本論 _____

事実1 _____ 考察1 _____

事実2 _____ 考察2 _____

情報探索を進めていく過程で得た資料

完成の整ったレポートを書くためのアウトライン

平成17年度大学図書館職員講習会 11

図書館員のスキルアップ

プレゼンのスキル プレレク

学外で発表・報告・講演などする場合に事前にわかりやすさをチェック

勉強会でのスキル 表面に出す必要性(裏のままである利点)

時間外の有志の活動 **WGなどに転換** **自由な発想・活動**

資料展示企画を通じた資料調査・発表のスキル

企画展 常設展 個人企画 **資料解説・構成**

他機関との連携 コミュニケーション力

宮城県図書館との相互研修・展示会等の共催

仙台市博物館、東北歴史資料館との展示協力

平成17年度大学図書館職員講習会 12

個人企画展示の例



平成17年度大学図書館職員講習会

13

最近の動き

三重大大学の例

サービス対象を
学外者に広げて
いる

インターネットを活用した書籍情報
検索講習会

学校図書館のための情報リテラシー入
門講座

e-learning / オンラインレファレンス
使ってもらえるものを目指して

リテラシー活動を紹介するサイト

「ライブラリーリテラシーのためのリソース集」

<http://ha6.seikyuu.ne.jp/home/egami/lresource/llrindex.htm>

平成17年度大学図書館職員講習会

14

地区での連携例



東北地区図書館
協議会で作成

さらに東北大学
工学分館で改訂
して利用

平成17年度大学図書館職員講習会

15

いま取り組んでいること

授業を開講すれば完了か？

単独



別授業の中で取り込んでもらう

図書館の講習会を強化する

サービス対象を無制限にすれば完了か？

地域連携

新しい提供方法のヒント

学内へのフィードバック

学内における新しく確
固たる位置づけが必要

専門教育

全学教育

学術情報リテラシー
教育

平成17年度大学図書館職員講習会

16

いま取り組んでいること

授業に密接に関わった在り方

シラバスを検証した上で、効果的な関わり方を提唱する

サブジェクトライブラリアンの必要性

各自専門を持つアメリカの例とは異なるが必要とされてい
る事情は同じ

図書館の活動の周知・広報

イベント

全館で展示会同時開催

学外を会場にした活動

平成17年度大学図書館職員講習会

17

まとめ

現在も様々な試行錯誤が行われている最中である

その大学（機関）で必要とされるリテラシーの内容は
その図書館員しかわからない

普段の業務の中で「気づく」必要性

他機関との交流が必要 単館では不可能なことも可能に

アンテナを（可能なかぎり）常に張っておく



平成17年度大学図書館職員講習会

18